

リスク管理

基本的な考え方

みずほフィナンシャルグループでは、経営の健全性・安定性を確保しつつ企業価値を高めていくために、保有するリスクを適切に管理し、制御していくことを経営上の最重要課題の1つとして認識し、リスク管理態勢の整備に取り組んでいます。

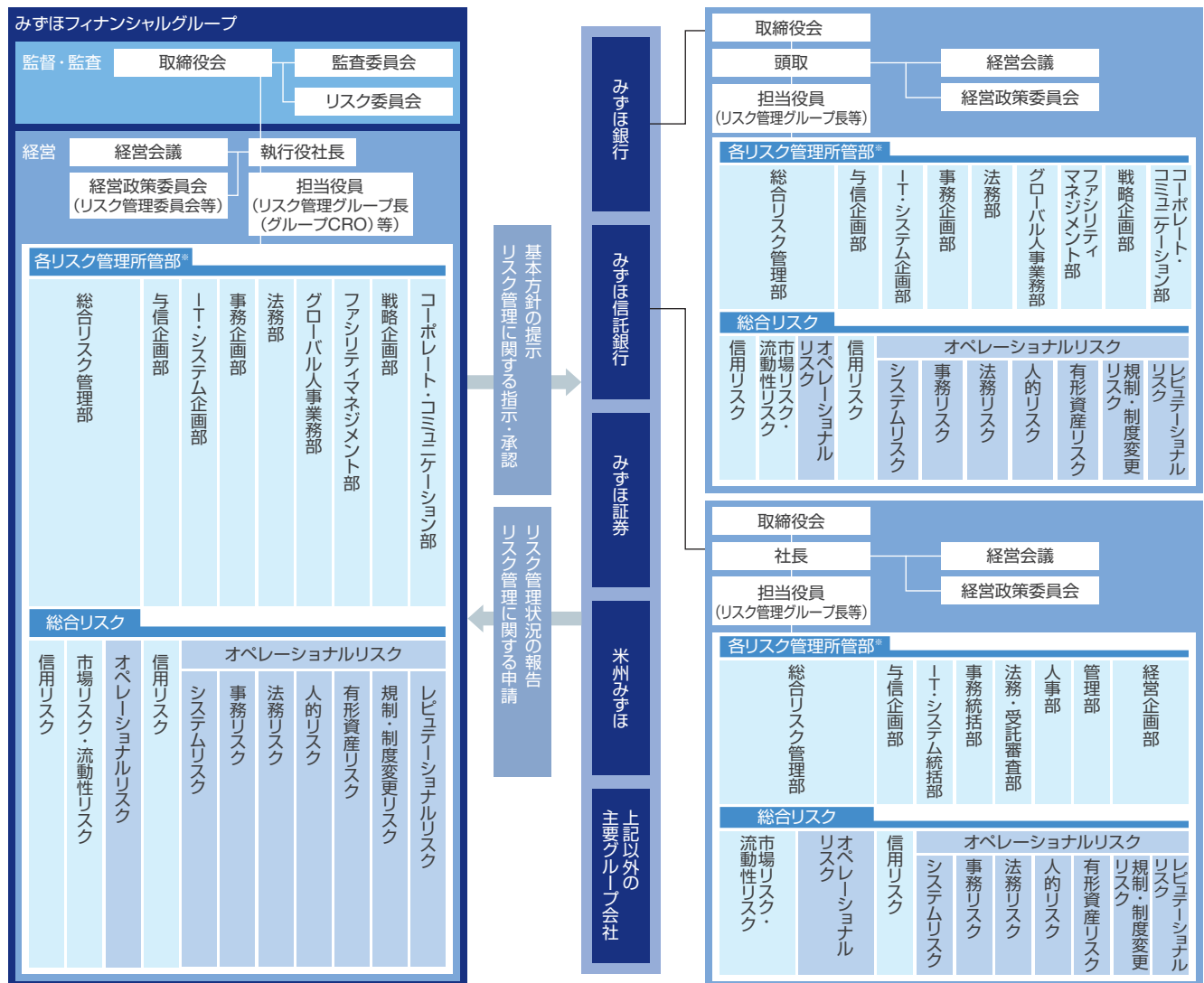
みずほフィナンシャルグループ（持株会社）では、当グループ全体に共通するリスク管理の基本方針を制定しています。当グループは、この基本方針に則りリスク管理の高度化を図る等、リスク管理の強化に努めています。

リスク管理態勢の概要

当グループでは、当グループ内の各社において適切なリスク管理を行うとともに、当社が当グループ全体のリスク

管理を統括する態勢としています。

具体的には、当社は、グループCROであるリスク管理



(2016年7月1日現在)

※3つの防衛線の考え方による各リスク管理所管部の機能と責任

各リスク管理所管部は、2線機能を有する部署として、1線が行う各リスクに関する自律的統制活動を監視（モニタリング）・測定・評価するとともに、各リスクの統制に係る基本方針を策定・推進する責任を有する。

グループ長を委員長とするリスク管理委員会にて、当グループのリスク全般を一元的に管理しています。グループCROはリスク管理の状況等を、取締役会等に報告しています。当社は、主要グループ会社からリスク管理の状況等について報告・申請を受けるとともに、主要グループ会社に対してリスク管理に関する適切な指示を行っています。

さらに、主要グループ会社においても、各種リスクの管理態勢を整備し、自社のグループ会社からリスクの状況等について報告を受けるとともに、リスク管理に関する適切な指示を行っています。

総合的なリスク管理について

基本的な考え方

当グループでは、当グループで保有するリスクを、「信用リスク」、「市場リスク」、「流動性リスク」、「オペレーショナルリスク」等に分類し、管理を行っています。

また、当グループでは、各リスクカテゴリーでの管理に加え、リスクを全体として把握・評価し、経営として許容できる範囲にリスクを制御していく、総合的なリスク管理態勢

を構築しています。

当グループでは、当社が定めた総合的なリスク管理に関する基本的な方針のもと、リスクを幅広く多面的に捉え、複数のリスクが内在する業務等（決済業務・信託業務等）のリスク管理方法も含めたリスク管理の高度化に積極的に取り組んでいます。

リスクカテゴリー	定義
信用リスク	与信先の財務状況の悪化等により、資産（オフバランス項目を含む）の価値が減少または消失し、当グループが損失を被るリスク
市場リスク	金利・株価・為替等の変動により損失を被るリスク。市場の混乱等で市場において取引ができなくなったり、通常より著しく不利な価格での取引を余儀なくされることにより損失を被るリスク（市場流動性リスク）を含む
流動性リスク	当グループの財務内容の悪化等により必要な資金が確保できなくなり資金繰りがつかなくなる場合や、通常より著しく高い金利での資金調達を余儀なくされることにより損失を被るリスク
オペレーショナルリスク	システムリスク、事務リスク等により構成され、内部プロセス・人・システムが不適切であること、もしくは機能しないこと、または外生的事象が生起することから当グループに生じる損失に係るリスク (構成する各リスクの詳細 ▶ 資料編 リスク管理態勢 P126)

リスクキャピタル配賦

当グループでは、当グループ全体が抱えているリスクを可能な限り把握し、リスクキャピタル配賦の枠組みのもと、その総量を当グループの財務体力の範囲内にとどめる運営を実施しています。

具体的には、当社が主要グループ会社に対してリスクキャピタルを配賦し、各社のリスク上限としてリスク制御を行うとともに、当グループ全体（連結ベース）のリスクが財務体力を超えないように経営としての許容範囲内にリスク

を制御しています。当グループでは、この枠組みのもとで、経営の健全性を確保するためにリスクキャピタルの状況を定期的にモニタリングし、各社内取締役会等に報告しています。なお、みずほ銀行、みずほ信託銀行、みずほ証券、米州みずほに対しては、リスクカテゴリー別にリスクキャピタルを配賦するとともに、各社内において業務運営単位等に配賦しています。